

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470300530
法人名	有限会社 友の里
事業所名	グループホーム 友の里
所在地 (電話番号)	鈴鹿市長沢町1750-1 (電 話)059-371-6688

評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 11 月 28 日(金)

【情報提供票より】(H20年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 5 月 17 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算 6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	500 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500円		

(4) 利用者の概要(11 月 10 日現在)

利用者人数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85.2 歳	最低 82 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鈴鹿クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の周囲は田や畑で、日当たり風通しのよい自然に恵まれた環境にある。畑仕事を終えた地域の方から野菜を頂いたり、話をしていかれたりして日常的に交流がある。開設後7年経過するが建物の内部は明るく清潔である。この事業所は運営者が管理者でもある。管理者は毎日ケアの現場で利用者、職員と顔を合わせていて、時には休んだ職員の交代夜勤に入るなど介護職員でもある。そのためか利用者、職員、管理者とも和気藹々とした感じがあり、家庭的な雰囲気を持っている事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の課題は三項目あり、「理念」については、地域の中でその人らしく暮らし続けると掲げ周知を図っている。「相談苦情窓口」は明記されている。「災害対策」の防火、避難訓練は定期的を実施している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員は日常業務の自己評価を行なっていて、これを基に管理者が今回の自己評価としてまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、今年の2月まで2ヶ月に1回定期的に開催していたが、離職者の補充等のために一時中断している。12月から再開することになっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会や運営推進会議で家族からの意見、苦情等を聞くようにしている。利用者の家族が気軽に面会に来られ、一緒に食事をしたり、休んでいたりしている。家族が職員や管理者に何でも言える関係を作ることが大切であると考えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所はこの地区の自治会、老人会には加入できないことになっているが、行事には招待され参加している。事業所の行事(盆踊りなど)も地区の人たちにも参加していただいている。近隣の畑で獲れた野菜を頂いたり、子どもたちが訪ねてきたり地域との交流は活発である。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念は「地域の中でその人らしく暮らし続ける支援。利用者と家族の満足と信頼を得る。利用者の要望と自主性を尊重する。」等である。事業所独自の理念としてホールにも掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議や申し送りの中で、日常のケアを取り上げ理念に照らしてどうであるか管理者から提案し話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	この地区の自治会、老人会には加入できない(規則により)が、行事には参加している。事業所での行事(盆踊りなど)にも地域の人々が参加している。近隣の畑で取れた野菜を持って来てくれたり、子供が訪ねてきたり地元の人々との交流は活発である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が日常業務の自己評価を行っていて、これを基に管理者がまとめて今回の自己評価を作成した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年の2月まで2ヶ月に1回定期的に開催していたが、その後離職者の対応に追われ一時中断している。12月には再開することになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には毎月利用者の情報提供を行なっている。鈴鹿亀山地区広域連合の担当者の方も度々事業所に立ち寄っていただき、管理者の悩みや苦勞を聞いて相談に乗ってもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行の広報誌「友の里たより」を家族に送っている。利用料請求時には本人の暮らしぶりや健康状態など「近況報告」を必ず書くようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族が気軽に面会に来られ、一緒に食事をしたり部屋で一緒に寝ていたりしている。こうした関係が職員や管理者に意見を言いやすい状況を作っており、相談等を受けたりしている。意見箱も設置しており、運営推進会議や家族会でも苦情、意見を出せるよう機会をつくっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年の5月職員数名がまとめて退職するという出来事があった。利用者のダメージを防ぐため、夜勤ローテーションに管理者も入ったり、新任職員のいいところを見てもらおう配慮する等の工夫を行ってきた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の研修テーマを決めた事業所独自の年間研修計画を実施している。外部研修については内容を見て必要な職員が参加することになっているが、5月以降は新任職員が多くなったので今後参加することになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県のグループホーム協議会には加入しており交流はある。近くの宅老所とも交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望、申し込みがあると、3～4日の仮(体験)入居をしていただき他の利用者や職員に馴染めるようにしている。この場合の体験入居は保険外のため1日1万円の有償となるが、入居すれば遡って介護保険対象となる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として敬うのが基本と考えている。共に過ごしていると慣れ慣れしくなり友達の感じになるので注意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思いや希望を把握している。把握が困難な場合は介護記録や家族から情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者とは関わりの中で、家族には意見を聞いて情報を収集し職員会議で検討、管理者が介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6ヶ月ごとに利用者の順番を決めて見直しをしている。変化のあった時は随時見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	在宅療養支援診療(24時間体制)医療機関との契約提携をしている。この体制を活かして医療処置を受けながらの生活の継続の支援を行なっている。初詣など特別な外出支援も行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医の受診については、基本は家族同行であるが不可能な時は職員が代行(有償)している。月1回は契約医療機関の往診を定期的に行なっている。認知症専門の神経内科にも受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化の状況を見て、家族の意向、本人にとって最良のケア、事業所ができる最大の支援方法などを家族に説明し方針を話し合っている。事業所としては家族の希望があれば医療連携体制を使って看取りの方針を持っている。現在2名の希望があり、職員全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りや人格を傷つける対応や声かけをしないよう注意している。書類の保管、個人情報の保護についても注意するよう徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日その時の本人の気持ちを尊重して自分の生活スタイルで暮らせるよう個別的な支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は委託業者であるが、汁物と果物は事業所で用意している。調理、食事準備、食事後の後片付けは利用者と職員が一緒に行なっている。食事も大テーブルを囲んで利用者と職員全員が和やかに同じ物を食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏は毎日入浴しているが、冬は4人ずつ交代で隔日に入浴を行なっている。希望があれば毎日でも入浴はできる。入浴を拒む人が多く、その対応に苦慮しているが、言葉がけや対応を工夫して入浴支援を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の「できること」「楽しみごと」を見出し、得意分野で力を発揮し役割を持ってもらえるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩、コンビニやスーパーへの買い物等で、月1回は遠くに出かけている。歌謡ショー、食事つきの温泉入浴に行くのを利用者は楽しみにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中の玄関には鍵をかけていない。利用者一人ひとりのその日の状態を把握し、さりげなく声をかけ自由な暮らしを支援できるよう鍵をかけない見守りのケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練、避難訓練は年間計画に基づき実施している。災害時の飲料水の確保について運営推進会議で検討され、地区の自治会長は水門開閉の権利があるので飲料水の確保は出来ることになった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の委託業者の管理栄養士が栄養バランスを考えた献立を作成している。水分補給を10時、15時、20時に必ず行なうよう決めている。個人別日常生活記録表に食事摂取量、飲水量をチェックし記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の周囲は田園で陽あたり風通しもよい。リビングは明るく静かである。キッチンリビングと対面型になっているので料理の匂い、お菓子づくりの匂いなどが漂い、生活感のある家庭的な空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた物を持ち込んで在宅での生活に近づけるようにしている。箆笥、椅子など家具の持ち込み、家族の写真を貼ったり、その人に応じた配慮をして、居心地よく過ごせるように工夫している。		